

仕事と自己啓発の月刊誌「OLマニュアル」

OLmanual

<http://www.kens-p.co.jp>

特別企画

「頭がいい人」「感じのよい人」の
話し方大研究



AUGUST. 2012
Vol.24 No.282

08

広島に行った時のことです。夕方の研修まで時間が空いたためぶらぶらと一人で原爆ドームを見学に行くことにしました。ホテルの前から路面電車がでていて、始発なのですぐに座ることができました。しばらくするとガヤガヤとにぎやかな子供たちの一団が乗りこんできました。

背中に小さなリュックを背負い手に手にノートと鉛筆を持っています。どうやら社会科学見学の小学生のようです。座席はあつという間にその一団で埋め尽くされてしまいました。楽しそうにおしゃべりをして車内は小学校の教室と化しました。次々に乗客が乗り込んできますが子供たちは一向に気にしている様子はありません。

次の駅に着くと高齢の女性が私の席の前に立ちました。隣は小学生が座っています。さてさて、この瞬間私の苦悩が始まったのです。席を譲るべきは誰なのか私？子供？先生はどこ？と頭の中を思いが駆け巡ります。周囲を見回すと先生とおぼしき人は立っていて全く気にする気配もなく生徒と談笑中です。

★巻頭エッセイ

相部博子の マナーは人の ためならず

連載

No.2

「感謝される
喜びを…」



相部博子 人材育成コンサルタント/ビーフォーシー代表取締役

私立鳴友学園女子高等学校卒業後、NewZealandクライストチャーチランギルスクールへ留学。その後、NewZealandミートプロデューサーズポート東京オフィス勤務。以降、日本航空株式会社、日本語講師、クリナーの輸入代理店、ニューヨークの日本語放送東京支社、日本で初の禁煙ラボの経営、及びカウンセラーなど、様々な業種と業務を経験し、平成元年6月に株式会社ビーフォーシーを設立。http://www.bforcorp.jp/

それを見ながらだんだん腹が立ってきました。原爆ドームを観るのも大切だが、その前に教師は人としての基本的な行動を教えるべきではないか。そう思いつつ私が立とうとすると、同時に隣の席の女の子が「おばあちゃんどうぞ座って」と声をかけたのです。「おお、良かった。教師よりもだ」とほっとすると、なんとその人は、あろうことか「いいの。いいの。あんた座ってなさい。私は大丈夫だから」と言いつつ座ろうとしないのです。子どもとしばらく押し問答があり、その子がおばあちゃんの手を強引に引く張つてやつと席に着かせました。

さて、今度はこの大人の行為に腹が立ってきました。なぜ人の善意を素直に受け入れないのか。自分の善意が受け入れられて「ありがとう」と言われる喜びを体験させる機会を摘んでしまっているのです。自分が人の役に立てた、という思いこそ人を育てる、人に感謝する心を培うことになるのです。遠慮は必ずしも美德ではないと思った1日でした。最近よく腹が立ちます。